

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	社会福祉学		
担当教員	森原 徹		
学年	1年	学科	作業・理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	<p>理学療法士・作業療法士として従事する医療現場等において、社会福祉の諸制度の理解や活用を求められることも多く、年々ニーズは多様化している。又、近年内容は複雑なものとなっている。</p> <p>社会福祉の歴史を通し、基礎的な内容を修得し専門職としてのスキル向上を目標とする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉とは何か</li> <li>2. 社会福祉の歴史</li> <li>3. ソーシャルワークの理解</li> <li>4. グループワークの理解</li> <li>5. グループワークの実践</li> <li>6. エンパワーメントとは</li> <li>7. ノーマライゼーションの考え方</li> <li>8. ICFに基づく考え方</li> <li>9. 介護保険制度について</li> <li>10. 社会保障制度と公的扶助について</li> <li>11. 児童福祉と母子・寡婦福祉について</li> <li>12. 障害者福祉について</li> <li>13. 医療保険制度と労働保険制度について</li> <li>14. 社会福祉の今後の課題について</li> <li>15. 社会福祉学のまとめ</li> </ol>		
教科書	使用しない		
参考書	必要な文献・レジュメを適宜準備		
評価方法	試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	生物学		
担当教員	東 秀孝		
学年	1年	学科	作業・理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	<p>生物学は、自然と生命に対し、深い理解をもって豊かな人生を送るために、最も役に立つ学問であります。  生物について知識を深め、ヒトを含めた生命体の仕組みを知っていきます。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の構造と生命誕生</li> <li>2. 生命体を構成する物質</li> <li>3. 遺伝子の構造と機能</li> <li>4. 生体とエネルギー</li> <li>5. 光合成と窒素同化①</li> <li>6. 光合成と窒素同化②</li> <li>7. 細胞の分裂・情報伝達・がん化</li> <li>8. 生命体の受精と生長</li> <li>9. 多細胞生物の自己維持機構</li> <li>10. 遺伝の仕組みと遺伝病①</li> <li>11. 遺伝の仕組みと遺伝病②</li> <li>12. 生物と環境が作る生態系①</li> <li>13. 生物と環境が作る生態系②</li> <li>14. 生物の進化と多様性</li> <li>15. 生命科学技術と社会</li> </ol>		
教科書	『やさしい基礎生物学』【編】南雲保（羊土社）		
参考書	資料		
評価方法	出席状況、レポート提出、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法セミナー		
担当教員	今野哲男		
学年	1年	学科	理学
単位数	4単位	時間数	30(15)時間
学習目標	コミュニケーション学を通して、社会へ出ていくときの「パフォーマンス・ポテンシャル」を医療スタッフとして最大限に高め、発揮できる力を養うことを目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 仕事に取り組む心構え</li> <li>3. コミュニケーション実践(OSCE)</li> <li>4. 言葉遣いの基本①</li> <li>5. 言葉遣いの基本②</li> <li>6. 言葉遣いの応用</li> <li>7. 電話対応の基本</li> <li>8. 失語症や認知症の方への対応</li> <li>9. 手紙の書き方(挨拶状・お礼状)</li> <li>10. 訪問・面接の方法</li> <li>11. 文章カステップ 4級①</li> <li>12. 文章カステップ 4級②</li> <li>13. 文章カステップ 4級③</li> <li>14. 文章カステップ 4級④</li> <li>15. 文章カステップ 4級⑤</li> </ol>		
教科書	『基礎から学べる！ 文章カステップ 4級』 【著】 日本漢字能力検定協会（日本漢字能力検定協会）		
参考書			
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法セミナー		
担当教員	江口昌充・伊吹太郎・久保田千代美		
学年	1年	学科	理学
単位数		時間数	30(15)時間
学習目標	<p>構造と機能の科目は、国家試験合格だけでなく、理学療法士として臨床思考能力を高めるための基盤となります。復習することで知識の定着をはかります。また、臨床実習に向け、事前準備を行なっていきます。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 運動器系の構造と機能 復習① 担当:江口</li> <li>2. 運動器系の構造と機能 復習② 担当:江口</li> <li>3. 運動器系の構造と機能 復習③ 担当:江口</li> <li>4. 運動器系の構造と機能 復習④ 担当:江口</li> <li>5. 脳神経系の構造と機能 復習① 担当:伊吹</li> <li>6. 脳神経系の構造と機能 復習② 担当:伊吹</li> <li>7. 脳神経系の構造と機能 復習③ 担当:伊吹</li> <li>8. 運動器系の構造と機能 復習⑤ 担当:江口</li> <li>9. 脳神経系の構造と機能 復習④ 担当:伊吹</li> <li>10. 脳神経系の構造と機能 復習⑤ 担当:伊吹</li> <li>11. 実習前教育① 担当:久保田</li> <li>12. 実習前教育② 担当:久保田</li> <li>13. 実習前教育③ 担当:久保田</li> <li>14. 実習前教育④ 担当:久保田</li> <li>15. 実習前教育⑤ 担当:久保田</li> </ol>		
教科書	運動器系の構造と機能、脳神経系の構造と機能の各教科書		
参考書	随時紹介します		
評価方法	出席状況、授業態度		
備考	<p>構造と機能の復習ではカラーリングなどを予定しています。できるだけ多くの色の色鉛筆などを用意してください。 担当教員の順序は講義の進行などにより入れ替わることがあります。</p>		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	脳神経系の構造と機能		
担当教員	岩崎 圭佑		
学年	1年	学科	理学
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
学習目標	脳神経系の構造と機能に関する知識を学び、リハビリテーション医学・医療を習得する上で活用できるようにする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系の構造と機能・総論①</li> <li>2. 神経細胞</li> <li>3. 大脳皮質の構造①</li> <li>4. 大脳皮質の構造②</li> <li>5. 脳動脈系・脳室と髄膜</li> <li>6. 脳静脈系 脳循環</li> <li>7. 間脳の構造①</li> <li>8. 間脳の構造②</li> <li>9. 大脳基底核</li> <li>10. 大脳辺縁系</li> <li>11. 脳幹の構造①</li> <li>12. 脳幹の構造②</li> <li>13. 脳神経①</li> <li>14. 小脳</li> <li>15. まとめ 国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『カラー図解 人体の正常構造と機能【全10巻縮刷版】<第3版>』【編】坂井建雄、河原克雅（日本医事新報社） 『病気がみえる（vol.7）脳・神経』【著】医療情報科学研究所（メディックメディア）		
参考書	『カラー人体解剖学 構造と機能・ミクロからマクロまで』【著】F.Hマティーニ 他（西村書店） 『イラスト解剖学』【著】松村讓兒（中外医学社） 『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 靱帯の有象と機能「1」』 【著】坂井健雄 他（医学書院）		
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	運動器系の構造と機能 I		
担当教員	村上 彰宏		
学年	1年	学科	理学
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
学習目標	運動器系の構造と機能を理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体の部位名、身体の位置に関する用語、身体運動の面と軸</li> <li>2. 骨の構造と機能①</li> <li>3. 骨の構造と機能②</li> <li>4. 関節の構造と機能①</li> <li>5. 関節の構造と機能②</li> <li>6. 関節の構造と機能③</li> <li>7. 関節の構造と機能④</li> <li>8. 腱および靭帯の構造と機能</li> <li>9. 骨格筋①</li> <li>10. 骨格筋②</li> <li>11. 骨格筋③</li> <li>12. 骨格筋④</li> <li>13. 骨格筋⑤</li> <li>14. 身体運動と力学</li> <li>15. まとめ、国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『基礎運動学』【著】中村隆一・斉藤宏・長崎浩（医歯薬出版） 『筋骨格器系のキネシオロジー』【著】Donald A. Neumann（医歯薬出版）		
参考書	『プロメテウス コアアトラス』【著】坂井 建雄（医学書院） 『プロが教える筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト事典』【著】荒川裕志（ナツメ社）		
評価方法	筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	運動器系の構造と機能Ⅱ		
担当教員	江口 昌充 ・ 植田 一輝		
学年	1年	学科	理学
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
学習目標	<p>【概要】 運動器系の構造と機能の復習。</p> <p>【目標】 スケッチ・口頭試問により、解剖学を理解する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上肢の関節の運動(関節名称)</li> <li>2. 下肢の関節の運動(関節名称)</li> <li>3. 頭部・体幹の運動(関節名称)</li> <li>4. 上肢のランドマーク①</li> <li>5. 上肢のランドマーク②</li> <li>6. 下肢のランドマーク</li> <li>7. 体幹のランドマーク</li> <li>8. 頭部のランドマーク</li> <li>9. 肩甲骨の運動と筋</li> <li>10. 肩甲上腕関節の運動と筋</li> <li>11. 肘関節・手関節の運動と筋</li> <li>12. 股関節の運動と筋</li> <li>13. 膝関節の運動と筋</li> <li>14. 足関節の運動と筋</li> <li>15. 頭頸部・体幹の運動と筋</li> </ol>		
教科書	『プロメテウス 解剖学コアアトラス』【著】坂井 建雄（医学書院） 『プロが教える筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト事典』【著】荒川裕志（ナツメ社） 『PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート』【著】中島雅美（医歯薬出版株式会社）		
参考書	『プロメテウス 解剖学コアアトラス』【著】坂井 建雄（医学書院） 『プロが教える筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト事典』【著】荒川裕志（ナツメ社）		
評価方法	筆記試験(口頭試問修了者のみ受験可能)		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年																														
科目名	解剖生理学																																
担当教員	岩月 宏彦 ・ 岩崎 圭佑																																
学年	1年	学科	理学																														
単位数	8単位	時間数	120(60)時間																														
学習目標	<p>患者様の治療にたずさわるには、ヒトの体の仕組みをしっかりと理解する必要がある。この目的のために、本科目では最初に人体の構成単位である細胞と、その集団である組織の構造と機能を理解する。それにより生命現象を学ぶ楽しさを知り、医学的な考え方を身につける。次いで、それを基礎にして、前期では循環器、免疫と呼吸器の構造と機能を理解し、今までは当然と思っていた様々な生命現象を医学的に説明できるようになる事を目的とする。</p>																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 細胞の構造と機能-1:細胞の分化、細胞膜</td> <td>2. 1. の復習</td> </tr> <tr> <td>3. 細胞の構造と機能-2:細胞の使うエネルギー、細胞小器官</td> <td>4. 3. の復習</td> </tr> <tr> <td>5. 細胞の構造と機能-3:核と遺伝子、細胞周期と幹細胞</td> <td>6. 5. の復習</td> </tr> <tr> <td>7. 組織の構造と機能-1:上皮組織、支持組織</td> <td>8. 7. の復習</td> </tr> <tr> <td>9. 組織の構造と機能-2:神経組織、膜電位</td> <td>10. 9. の復習</td> </tr> <tr> <td>11. 組織の構造と機能-3:神経の興奮伝達と情報の統合</td> <td>12. 11. の復習</td> </tr> <tr> <td>13. 組織の構造と機能-4:骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム</td> <td>14. 13. の復習</td> </tr> <tr> <td>15. 循環器系-1:血液、組織液</td> <td>16. 15. の復習</td> </tr> <tr> <td>17. 循環器系-2:心臓の構造、心臓の収縮、心電図</td> <td>18. 17. の復習</td> </tr> <tr> <td>19. 循環器系-3:毛細血管、動脈、静脈</td> <td>20. 19. の復習</td> </tr> <tr> <td>21. 循環器系-4:局所循環、脈拍、血圧</td> <td>22. 21. の復習</td> </tr> <tr> <td>23. 免疫系-1:自然免疫、リンパ球(獲得免疫)、リンパ管</td> <td>24. 23. の復習</td> </tr> <tr> <td>25. 免疫系-2:リンパ節、胸腺、脾臓、粘膜付属リンパ組織</td> <td>26. 25. の復習</td> </tr> <tr> <td>27. 呼吸器系-1:気道の構造、肺胞</td> <td>28. 27. の復習</td> </tr> <tr> <td>29. 呼吸器系-2:呼吸運動、肺活量、呼吸運動の調節</td> <td>30. 29. の復習</td> </tr> </table>			1. 細胞の構造と機能-1:細胞の分化、細胞膜	2. 1. の復習	3. 細胞の構造と機能-2:細胞の使うエネルギー、細胞小器官	4. 3. の復習	5. 細胞の構造と機能-3:核と遺伝子、細胞周期と幹細胞	6. 5. の復習	7. 組織の構造と機能-1:上皮組織、支持組織	8. 7. の復習	9. 組織の構造と機能-2:神経組織、膜電位	10. 9. の復習	11. 組織の構造と機能-3:神経の興奮伝達と情報の統合	12. 11. の復習	13. 組織の構造と機能-4:骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム	14. 13. の復習	15. 循環器系-1:血液、組織液	16. 15. の復習	17. 循環器系-2:心臓の構造、心臓の収縮、心電図	18. 17. の復習	19. 循環器系-3:毛細血管、動脈、静脈	20. 19. の復習	21. 循環器系-4:局所循環、脈拍、血圧	22. 21. の復習	23. 免疫系-1:自然免疫、リンパ球(獲得免疫)、リンパ管	24. 23. の復習	25. 免疫系-2:リンパ節、胸腺、脾臓、粘膜付属リンパ組織	26. 25. の復習	27. 呼吸器系-1:気道の構造、肺胞	28. 27. の復習	29. 呼吸器系-2:呼吸運動、肺活量、呼吸運動の調節	30. 29. の復習
1. 細胞の構造と機能-1:細胞の分化、細胞膜	2. 1. の復習																																
3. 細胞の構造と機能-2:細胞の使うエネルギー、細胞小器官	4. 3. の復習																																
5. 細胞の構造と機能-3:核と遺伝子、細胞周期と幹細胞	6. 5. の復習																																
7. 組織の構造と機能-1:上皮組織、支持組織	8. 7. の復習																																
9. 組織の構造と機能-2:神経組織、膜電位	10. 9. の復習																																
11. 組織の構造と機能-3:神経の興奮伝達と情報の統合	12. 11. の復習																																
13. 組織の構造と機能-4:骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム	14. 13. の復習																																
15. 循環器系-1:血液、組織液	16. 15. の復習																																
17. 循環器系-2:心臓の構造、心臓の収縮、心電図	18. 17. の復習																																
19. 循環器系-3:毛細血管、動脈、静脈	20. 19. の復習																																
21. 循環器系-4:局所循環、脈拍、血圧	22. 21. の復習																																
23. 免疫系-1:自然免疫、リンパ球(獲得免疫)、リンパ管	24. 23. の復習																																
25. 免疫系-2:リンパ節、胸腺、脾臓、粘膜付属リンパ組織	26. 25. の復習																																
27. 呼吸器系-1:気道の構造、肺胞	28. 27. の復習																																
29. 呼吸器系-2:呼吸運動、肺活量、呼吸運動の調節	30. 29. の復習																																
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能「1」』 【著】坂井健雄・岡田隆夫 (医学書院) 『解剖生理学ワークブック』【著】坂井健雄・岡田隆夫 (医学書院)																																
参考書	必要に応じてプリントを配布																																
評価方法	期末試験																																
備考	岩月のメールアドレス:hirohiko-iwatsuki@ae.auone-net.jp(何時でも質問可)																																



開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	リハビリテーション概論		
担当教員	三吉 舞子		
学年	1年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	リハビリテーションの概念や理念、健康と障害の概念や分類、障害の心理と受容、またリハビリテーションに関わる職種、病院・施設・地域におけるリハビリテーションの関わり方、医療福祉制度の基礎を学ぶことにより、医療・福祉・地域社会における現在の作業・理学療法士の位置づけを理解してもらい、これからどのようなセラピストを目指すのかをイメージできるようにする。		
授業計画	第1章 1. リハビリテーションの概念・理念・定義 第2章 2. 健康・疾病・障害の概念 (1)－健康疾病障害、疾病と障害の分類－ 3. 健康・疾病・障害の概念 (2)－障害へのアプローチ、廃用、誤用、過用症候群－ 第5章 4. リハビリテーション過程 (1)－評価－ 5. リハビリテーション過程 (2)－ゴール設定・プログラム作成・クリニカルパス－ 第6章 6. リハビリテーションの諸過程 (1)－医学的リハー 7. リハビリテーションの諸過程 (2)－職リハ、社会的リハ、教育的リハー 第7章 8. 医療とリハビリテーション専門職種と役割 (1)－医療職種に関わる諸問題－ 9. 医療とリハビリテーション専門職種と役割 (2)－リハビリテーション専門職種－ 第8章 10. チームアプローチ (1)－チーム医療と連携医療－ 11. チームアプローチ (2)－リハプログラムとクリニカルパス－ 第9章 12. ADL, QOLの概念と評価法 (1)－ADL－ 13. ADL, QOLの概念と評価法 (2)－IADL・QOL 第10章 14. 地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア (1)－社会資源－ 15. 地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア (2)－在宅ケア－		
教科書			
参考書	適宜お知らせします。		
評価方法	筆記試験		
備考	リハビリテーションをこれから専門的に学ばれる学生さんの道しるべとなる科目です。将来の自分のイメージ(患者様と関わっている自分)をしっかりと持ち、一日一日を大切に学習に励んで下さい。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法概論		
担当教員	三吉 舞子		
学年	1年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	理学療法の歴史や概念を学び、医療福祉、社会の中での理学療法士の位置づけを知る。理学療法士として必要な資質や情報管理を学び、専門職としての目標をもつ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法の歴史・定義</li> <li>2. 理学療法を構成する各種技術の概要①</li> <li>3. 理学療法を構成する各種技術の概要②</li> <li>4. 理学療法とリハビリテーション</li> <li>5. 理学療法と障害(ICF・ICIDH)①</li> <li>6. 理学療法と障害(ICF・ICIDH)②</li> <li>7. 医学の領域</li> <li>8. 中間まとめ</li> <li>9. 理学療法過程</li> <li>10. クリニカルパス</li> <li>11. 理学療法士の使命</li> <li>12. 理学療法士に求められる臨床思考</li> <li>13. 理学療法士の活躍の場①</li> <li>14. 理学療法士の活躍の場②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	使用しない		
参考書			
評価方法	筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	基礎理学療法学Ⅰ		
担当教員	今野 哲男 ・ 江口 昌充		
学年	1年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	触診はセラピストの重要な基本技術の一つであり、解剖・運動・病態生理・理学療法などの理論・知識を基礎とし、評価と治療を進めるうえで不可欠である。基本的な触診技術を習得すると同時に、骨・軟部組織などの名称、部位及び位置関係を認識する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・生体の形と動きを表現する</li> <li>2. 生体の形と動きを表現する</li> <li>3. 触診の基本について</li> <li>4. 肩甲骨</li> <li>5. 鎖骨・上腕骨</li> <li>6. 橈骨・尺骨</li> <li>7. 手根骨・指骨</li> <li>8. 実技試験</li> <li>9. 骨盤帯</li> <li>10. 大腿骨・膝蓋骨</li> <li>11. 脛骨・腓骨</li> <li>12. 足関節及び足部周辺</li> <li>13. 実技試験</li> <li>14. 胸郭・脊柱に関連する諸組織</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	『運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢』【監】青木隆明（メジカルビュー社） 『運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢・体幹』【監】青木隆明（メジカルビュー社）		
参考書	適宜紹介		
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考	実際に体を触れ理解を深める授業です。Tシャツ、短パンなどなるべく肌を露出できる服装で受講して下さい。講義の順序は入れ替わることがあります。また、講義の回数、時間割の変更もあり得ますので、良く確認して出席日数に気をつけて下さい。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法管理学		
担当教員	三吉 舞子		
学年	1年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	<p>マネジメントについて学習することで、危機を防ぐマネジメント能力を身につける。  病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。  職場内のマネジメントについて理解できる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション科における管理とは</li> <li>2. 組織化</li> <li>3. 業務管理</li> <li>4. 人事労務管理</li> <li>5. 教育システム</li> <li>6. 管理者のあるべき姿</li> <li>7. リスクマネジメント</li> <li>8. 経営管理</li> <li>9. 地域の保健・医療・福祉</li> <li>10. 疾患別・病気別の理学療法マネジメント①</li> <li>11. 疾患別・病気別の理学療法マネジメント②</li> <li>12. 疾患別・病気別の理学療法マネジメント③</li> <li>13. 疾患別・病気別の理学療法マネジメント④</li> <li>14. 疾患別・病気別の理学療法マネジメント⑤</li> <li>15. 疾患別・病気別の理学療法マネジメント⑥</li> </ol>		
教科書	使用しない。		
参考書	「理学療法管理学」【編著】奈良勲(医歯薬出版) 「リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック」【編集】金谷さとみ 高橋仁美 (MEDICALVIEW) 「リハビリテーション職種のマネジメント」【著】高木綾一(CBR)		
評価方法	筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法評価学 I		
担当教員	村上 彰宏 ・ 岩崎 圭佑		
学年	1年	学科	理学
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
学習目標	実技体験を中心に行い、理学療法に必要な評価を理解する。		
授業計画	1. 評価学総論 I 2. コミュニケーション・問診 3. 医学的情報 概論 4. 全身状態の評価 5. バイタルサイン 6. ランドマークの触診 7. ランドマークの触診 8. 形態測定① 9. 形態計測② 10. 関節可動域テスト① 11. 関節可動域テスト② 12. 関節可動域テスト③ 13. 1～12のまとめ 14. 筋力測定 15. 徒手筋力検査① 16. 徒手筋力検査② 17. 徒手筋力検査③ 18. 疼痛検査 19. 感覚検査 20. ADL評価 21. バランステスト 22. 反射検査 23. 整形外科的テスト① 24. 整形外科的テスト② 25. 整形外科的テスト③ 26. 姿勢・動作・歩行観察① 27. 姿勢・動作・歩行観察② 28. 姿勢・動作・歩行観察③ 29. 14から28のまとめ 30. 1～29までのまとめ		
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版） 『図解 理学療法検査・測定ガイド』【著】奈良勲（文光堂） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop（共同医書出版社）		
参考書	『プロメテウス 解剖学コアアトラス』【著】坂井 建雄（医学書院）		
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	動作分析学		
担当教員	仁泉 健太郎		
学年	1年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	<p>正常姿勢・動作の理解  ①視覚・触覚を利用し、動作を再現・模倣することが出来る。  ②運動学を理解し、姿勢・動作を分析することが出来る。  ③動作介助の基本を理解する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、動作分析とは・姿勢と動作</li> <li>2. 身体の運動面、運動方向</li> <li>3. 1, 2.講のまとめ 単元テスト①</li> <li>4. 姿勢観察、分析(背臥位)</li> <li>5. 寝返り・起き上がり動作①</li> <li>6. 寝返り・起き上がり動作②</li> <li>7. 寝返り・起き上がり動作③</li> <li>8. 4. ~ 7. 講のまとめ 単元テスト②</li> <li>9. 姿勢観察、分析(座位)</li> <li>10. 起立動作①</li> <li>11. 起立動作②</li> <li>12. 着座動作</li> <li>13. 姿勢観察、分析(立位)</li> <li>14. 9. ~ 10. 講のまとめ 単元テスト③</li> <li>15. 前期のまとめ</li> </ol>		
教科書	『動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践』 【著】石井慎一郎 (メジカルビュー社)		
参考書	『姿勢と動作』【著】齋藤宏、矢谷令子、丸山仁司 (メヂカルフレンド社) 『動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析』【著】西森隆 (医歯薬出版) 他、随時紹介します。		
評価方法	①単元テストに合格すること(単元テストは何度でも受験可) ②授業態度・課題への取り組み・レポート・出席状況等によって総合的に評価する。		
備考	理学療法士は、日常生活活動を営むために必要な基本姿勢動作に対して評価、治療を行う専門職です。しっかり勉強をしていきましょう。		